

市長記者会見記録

日時：2022年6月21日（火）14時00分～14時17分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：市政一般

<内容>

《市政一般》

【司会】 ただいまより定例市長記者会見を始めます。本日の議題は市政一般となっております。それでは、早速質疑に入らせていただきますが、進行につきましては、幹事社様、よろしく願いいたします。

《物価上昇に伴う地域経済への影響について》

【日経（幹事社）】 幹事社の日本経済新聞です。よろしく願いいたします。

本日、政府のほうで、物価、賃金等の対策本部の初会合が開かれました。節電ポイントの付与とか、いろいろな政策がこれから具体化していくと思うんですけども、何か、市内の状況を御覧になって、国に対しての要望とか、こういうところに注力してほしいとかいうような要望があれば、お聞かせ願えますでしょうか。

【市長】 これからいろんなメニューが出されるんだと思うんですけども、物価高の影響というのは、短期で済むような話ではなさそうなので、本当に短期、中期、それで長期の話って、どういうふうに進めるのかというのが、なかなか見えづらいということもあるので、そこが何かポイントかなと。あまり給付だけの話ばかりしていても、長期にわたって、ずっと給付していくのかということになると、そういうものでもないと思っていますから、だから短期の話は短期の話として、もう少しロングスパンの話は、もう少し議論をしてもらいたいなというのはあります。

市内の経済界の方たちも、やはりこれがどのぐらいの話なのかというのが、先行きが見えないところに非常に不安を持っておられる方というのは多いと思いますので、その辺りを整理していただけると、メッセージとしても、しっかり伝わってくるのではないかなと思っていますけれども。

《参議院議員選挙について》

【日経（幹事社）】 分かりました。

次に、明日、参議院選公示ということになります。参議院選について、市長御自身、何か注目している点、あるいは期待している点がありましたら教えていただけますで

しょうか。

また、松沢前知事、再出馬されるようですが、何か市長に支援要請とか何かありましたでしょうか。お聞きしたいと思います。

【市長】 まず、最後の質問からお答えすると、ございませんし、また、私も国政選挙には基本的に携わらないという形をずっと貫いてきておりますので、その点については今までと変わっておりません。

参議院選挙については、皆さん、やっぱり経済対策みたいところが気になるところなんでしょうけれども、先ほど申し上げたように、なかなか争点が難しいところあるんじゃないかなと個人的には思っていますけれども、でも、本当に投票率は上がってもらいたいというのは常に選挙のたびに思うので、関心を持って、私自身も注視していきたいと思っています。

《物価上昇に伴う地域経済への影響について》

【毎日（幹事社）】 幹事社の毎日新聞です。先ほどの質問とも関連しますが、円安に関してお尋ねします。

燃料費の高騰などで、例えば、公衆浴場など個人経営の事業者さんが非常に苦境に立たされているということは承知しておりますが、そういった個人経営、あるいは家族経営の事業者、市内の事業者の方の現況、あるいは支援策についてお聞かせいただければと思います。

【市長】 今、交付金の新たな使い方についても、この前、議会でも少し答弁させていただいたように、給食のことも、活用も含めて、今、様々検討しているところですが、先ほどの燃料費の話の高騰というのは全ての人たちが対象になってしまうので、この事業に関しては、例えば、今、事例に出されました公衆浴場なんていうのもそうですけれども、そこを支援するとすれば、じゃあ、どこもそうですよねという話になって、際限がなくなるというのが事業の切り分けとしては物すごく難しいです。そういった意味では、国のほうで高騰対策のようなもの、ガソリン価格を抑えるための元売りに対するとかというのも講じられたりとかいうのが、そういう対策をしていくしか、ちょっと。一番川下のほうで対策を取るとするのは極めて困難だと言わざるを得ないと思っています。

【毎日（幹事社）】 ありがとうございます。

あと、各社さん、よろしくお願ひします。

【市長】 どうぞ。

《特別自治市について》

【読売】 読売新聞です。

参院選の関係なんですけれども、先月行われた指定都市市長会の市長さんが座長を務めたプロジェクト会議で、参院選の候補者に特別自治市についてアンケートを取りましょうという話になっていましたけど、その後、進捗はいかがでしょう。

【市長】 ありがとうございます。実は、私もアンケートもいろいろ調査したところ、公職選挙法に非常に抵触する可能性があるという基本的なところで少しつまずきがございまして、選挙直前に公表するとなると、ということですか、様々な法律に抵触するという課題があって、それを、ことを踏まえると、選挙の時期に向けてのアンケート調査、そして公表というのはなかなか難しいということで、少し先送りにしようとして今考えていて、担当のサブリーダーを務める横浜、名古屋市などにも、少しそういうふうなお話をさせていただいたところです。

【読売】 この参院選の時期にはやらないけど、いずれやるということですね。

【市長】 そうですね。国会議員の皆さんに対してはやっていきたいと思っておりますけれども、この参議院選挙直前でのアンケートというのは難しいということになりました。

【読売】 今年中にはやりたいという感じですか。

【市長】 そうですね。なるべく効果的なアンケートになるようにしたいというのは、時期とやり方というのは、もう少し。時間的余裕が少しできたと思うので、この前、市長会的时候は、参議院選挙に向けてというのがあったものですから、急がなきゃなというのはあったんですけれども、そういった公選法の絡みから考えると、ちょっと時間できたので、もっと効果的な方法って、どうやればいいのかというのは考えていきたいと思っています。

【読売】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

《川崎市差別のない人権尊重のまちづくり条例について》

【朝日】 すいません。朝日新聞でございます。

市のヘイトスピーチ対策条例の刑事罰の施行から7月で2年になります。改めて当時振り返って、導入の動機と、2年たった今の、この2年間の刑事罰導入の影響みたいなもの、どんな受け止めかなと思ひまして。

【市長】 条例が施行されてから7月1日で丸2年を迎えるということで、そういった意味では、この2年間、明らかに条例に抵触するような言動というのが、この市内で行われるということとはなくなってきたということを考えると、一定の効果があった

のではないかと思っています。

ただ、条例に触れなければそれでいいかという、そうではないですし、それこそ抵触しないように発言をするという形で、いろんな形で発言をすることがあるということは承知していますので、そういった意味では、これからも引き続き粘り強く、差別、偏見の起さない環境づくりというのは努めていきたいと思っています。

【朝日】 ちなみに、あれですよ。条例そのものは今年の12月に2周年で、刑事罰の施行が2年でしたよね。

【市長】 そうですね。はい。

【朝日】 段階的に導入されている。

【市長】 そうですね。はい。

【朝日】 ありがとうございます。

【市長】 どうぞ。

《衆議院小選挙区の区割りの改定について》

【神奈川】 神奈川新聞です。

16日に衆議院の小選挙区選出議員の選挙区の改定案の発表がありました。それについて市長からコメントが発表されましたが、その中で、現在の市の区域の中での区割りを行うことが混乱が少なく適切だと考えておりますというコメントでしたが、今回のような、こういった19区の割り方について、横浜市都筑区と一緒にすることになってしまったわけですが、宮前区、これから先、市長がこちらのコメント出された混乱ということについては、どういったことが、これから起こる可能性があるかと御心配、危惧しておられますか。

【市長】 私も宮前区に住んでおまして、以前、宮前区と青葉区が同じ選挙区であった当時というのもございまして、その当時も非常に市域の一体性がないというか、横浜市民の方から、青葉区民から見てもそうですし、宮前区民としても非常に市域をまたがるどころの代表者って、どういうことなんだろうというのは、かなり混乱したというのもありますし、あれは絶対避けたいよねというのは、およそ有権者の多くは非常に感じていたとあの当時も記憶していますし、それは本当に避けるべきだと言ってきた立場で、知事にも、そのことをしっかりと口頭でも伝え、賛同を得ていたんですが、県知事意見としては真逆な方向になっているということで、どういうことかなと思いますけど。

いずれにしても、特別自治市を目指しているという立場もありますし、市域の一体性がなくなるというのは、それが国政の意見としてつながっていかない形というのは

非常に残念に思っています。

【神奈川】 やっぱり宮前区だけじゃなくて、横浜の都筑区の候補者の方も入ってこられると、1つになることによって、横浜と宮前区、両方の意見が1つになってしまうということで、ちょっと市の課題を国に伝えることが難しくなるということでしょうか。

【市長】 それはございますね。やっぱり市内選出の国会議員という形のくくりで、いろんなことも要望させていただいているわけですがけれども、そこに選出される国会議員の方も非常に難しいと思いますね。横浜と川崎の両方の課題を、あるいは地域課題とかというのを代表しなければならないというのは、代表者としても難しいのではないかなとは思っています。

【神奈川】 宮前区の住民からも、非常にちょっと不安視する声が上がっていたということでしたので伺いました。ありがとうございます。

【市長】 ありがとうございます。

どうぞ。

《「二十歳（はたち）を祝うつどい」の開催について》

【t v k】 t v kです。

昨日、20歳を祝うものですね、名称変更等のリリースがあったかと思うんですがけれども、実際、成人年齢が引き下げられた中で、20歳の方々を引き続き祝う式典にするということですがけれども、こちらの新たな方針の市長の考えをお伺いしてもよろしいでしょうか。

【市長】 これは非常に大きな問題だったので、この話はずっと丁寧に進めてきました。成人の若い人たちの意見をしっかり聞こうということで伺ってきた中で、圧倒的多数の方が20歳での成人式というか、20歳を祝う集いを望んでおられるということでありましたし、その理由は幾つもあるわけですがけれども、例えば、受験の問題だとか、重なるとかですね。様々な課題がある中で、ほぼ、ほとんどの方が20歳のタイミングでという形を具現化したということになりますけれども、全国的な事例を見ても、圧倒的、本当に少数の自治体しか18のときにやらないということで、皆さんの大体総意なんだろうなと思っています。

若者たちだけでなく、運営するボランティアだとか、そういう方たちも、かなり丁寧に意見を聞いてきたので、このような形で収まって、皆さん、納得されているのではないかなと思っています。

《東扇島東公園の大型バス放置について》

【t v k】 ありがとうございます。

すいません。もう1点、別件で、東扇島のバスの放置の関係なんですけれども、撤去命令がまた今月末期限に出されているかと思うんですけど、ここでまた動きがないようであれば代執行というような動きになるかと思うんですけども、その辺、今、進捗はないかもしれませんが、今の動きと代執行に向けての今のお考えを伺ってもよろしいですか。

【市長】 明日が期限になっておりますので、仮に明日までに返事がない場合には、さらなる法的な手続に進んでいくということになりますので、もうそこは肅々と、そうなった場合には行っていきたいと思っています。

【t v k】 ありがとうございます。

【市長】 はい。

《特別自治市について》

【読売】 度々すいません、読売です。

先ほどの特別自治市の関係なんですけれども、参院選に向けてのアンケートできないのは仕方ないとして、ただ、指定都市市長会の会長さんも、参院選は1つの特別自治市の理解を進める住民の方たちにも、国会議員や国会議員の候補者にも理解を進めてもらうのにチャンスだとおっしゃっていた中で、実際、候補予定者の方たちの演説などで、特別自治市の話が出てくることって、もうほとんどないのが実情なんですけれども、そんな中で、その現状をどう受け止められるかということと、特別自治市を進められる、進めていきたい立場の市長さんとしては、今後、参院選では、どんな議論を期待されるかお答えください。

【市長】 本当にこれだけ低成長が続いている国の中で、都市の在り方だとかって、どうやって、その成長を国全体として押し上げていくのかという中で、自治の在り方ということも本当に議論してもらいたいと強く思っています。ですから、参議院選挙を通じて、どこまでというのは厳しい状況かもしれませんが、やはり来年は統一地方選挙ということで、各政党とも、かなり。かなりというか、ある意味、最も土台をつくっていく選挙になりますので、そういったことから、やはり議論をさらに盛り上げていきたいと思えますし、国政選挙だけじゃなくて、統一地方選挙というのは、もろ自分たちの自治のことを決めていくということですから、そこに向けても喚起をしていきたいと思えますし、盛り上げていきたいなと思っています。

【読売】 ありがとうございます。

【司会】 質問、よろしいでしょうか。

では、以上をもちまして市長記者会見を終了いたします。ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044(200)0312